Race Report

―― 2014　K 耐久東海シリーズ　第 4 戦　2014 年 9 月 28 日

「COMEBACK SUMMER！」

今シーズン初優勝！　#35

第4戦を迎えた、K耐久東海シリーズ2014は、いよいよシーズンの天王山”4時間耐久戦”。何が起こるかわからない長丁場のレースに加え、獲得ポイントも増量でシリーズを追うチームにとっても大きな意味を持つ。
スパ・ウェザーだった第3戦とはうって変わり、9月も末とは思えない真夏のような太陽が照りつける西浦。4時間先夕暮れのゴールに真っ先に飛び込むのはどのマシンか！

前戦とは逆　惜しくも同一 Lap で 2 位　#100

「ＫＮＮ」クラス（軽ＮＡのノーマルクラス）

今回は二けた 10 台が参加した KNN クラス。#5 は KNC での戦いとなる。シリーズ争いでは#100「HAC もらいものビート」がリードしての後半戦。一発の速さでは勝る#35「JK レーシングユーロビート」はそろそろ優勝が欲しい。
HA23型の新規格アルトが増えてきたのが特徴で、バン・セダン合わせて5台がエントリー。新規格勢同士の争いも見どころ。

表彰台はすべてビート　#7

■予選

完全ドライのコンディションでも、予選クラストップは#35「JK レーシングユーロビート」で 1’09.579。ここまで開幕 4 戦すべてでクラストップのスプリンターぶりを発揮。予選 2 位は#100「HAC もらいものビート」1’09.962、レース巧者ぶりを見せつけてここまで 2 勝、ランキングは現在首位。ここで勝てば悲願の初タイトルに大きく前進する、雌雄を決する大きな勝負だ。
予選 3 番手は新規格では最速となる#95「KHK アルト」1’11.230、4 番手は 1 年ぶりの参加となる#7「ファニースピード DXL ビート」1’11.783。5 番手はビストロ顔の#29「BLAST ヴィヴィオ」1’12.917、6 番手は地元の学生、#16「愛知工科大学アルト」1’14.216、7 番手#28「LIMITLINE ヴィヴィオ」1’16.032、こちらはノーマル顔。8 番手#2「やっと 20 歳になりましたアルト」1’16.750、9 番手#3「Timely アルト IDI オマケ」1’18.923、そして最後が予選序盤でスピンアウトしてしまった#444「Team YKSR　ALTO」だが、1’27.786 で、無事全車予選通過。

速さは増してきたぞ　#95

■序盤

まず序盤でペースをつかんだのは#35「JK レーシングユーロビート」、スタートから首位に立つと第一スティント首位をキープ。2 位以下も上位陣はビート、#100「HAC もらいものビート」と#7「ファニースピード DXL ビート」がトップを追いかける。まだレースは始まったばかりだ。
中団グループは新規格勢が続く。#95「KHK アルト」、#2「やっと 20 歳になりましたアルト」、#16「愛知工科大学アルト」などが順位を入れ替えながら続いていく。思ったほどペースが上がらないのが、#29「BLAST ヴィヴィオ」と#444「Team YKSR　ALTO」。ともに参戦経験豊富なチームだけに少し心配なところではある。はやくペースを掴んでほしい。

中団はアルト勢　#2

©2008-2014　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■中盤

レース中盤を支配したのは#100「HAC もらいものビート」。同車種の#7「ファニースピード DXL ビート」、#35「JK レーシングユーロビート」の争いを制してトップを走行。
さらにその下では#28「LIMITLINE ヴィヴィオ」、#95「KHK アルト」、#2「やっと 20 歳になりましたアルト」、#16「愛知工科大学アルト」の新旧規格のマシンたちが混戦で続く。中団までの Gap はおよそ 5Lap、まだまだ大混戦。
スピードで勝るビート勢に対し、じわじわと上げてくるアルト勢といった様子でもあるが、終盤に向けては特に一発の速さがある#35「JK レーシングユーロビート」の動きが気になるところ。
下位では、序盤出遅れた#444「Team YKSR　ALTO」と#29「BLAST ヴィヴィオ」も周回を重ねており、まだまだレースをあきらめてはいない。

■終盤

サーキットにさす日差しが斜めになったころ、残り 1 時間を切って、トップを行く#100「HAC もらいものビート」と 2 位#35「JK レーシングユーロビート」の差は 1Lap、持ち前のスピードを活かして＃35 が追い上げ開始。3 位#7「ファニースピード DXL ビート」はさらに 1Lap 差で追う。アルト勢は 4Lap を程の差がついたため上位はビート 3 台の争いか。
しかし、普段ならゴールを迎える時間を超えてのドライブは、まだまだ油断ができない。オーロラビジョンには”西陽注意”のコーションが出るほど、集中力を切らさないドライビングが要求される。

ヴィヴィオ勢のトップ　＃28

学生チームは 7 位　＃13

背番号 3 は栄光のナンバー　＃3

チーム名はメンバーの名前です　＃444

全車完走！　＃29

©2008-2014　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■最終結果

最終スティントの#35「JK レーシングユーロビート」の追い上げはすさまじく、途中ペナルティを受けながらも、トップを逆転、そのまま優勝！大事な 4 時間戦で今季初勝利を飾った。2 位は最終盤でのペナルティストップも響いたか、#100「HAC もらいものビート」。今季 3 勝目は逃したが、シリーズ争いでは首位を堅持。
3 位はもう一台のビート#7「ファニースピード DXL ビート」が入り表彰台はビートが占めた。
アルト勢最上位は#95「KHK アルト。3位とは同一周回、表彰台に片足はかかったが惜しくも 4 位。5 位もアルトで#2「やっと 20 歳になりましたアルト」。
以下、6 位に#28「LIMITLINE ヴィヴィオ」、7 位#16「愛知工科大学アルト」、8 位#3「Timely アルト IDI オマケ」、9 位#444「Team YKSR　ALTO」、10 位#29「BLAST ヴィヴィオ」で全車完走というリザルト。

■総評

10 台を集めての戦いとなった KNN、レーシングスピードではビート勢に分があるが新規格アルトも戦闘力を増してきており、（ビートが表彰台独占という）結果ほどの差は無くなってきている。今季最終戦で新規格勢の初優勝が見られるか、期待したい。

©2008-2014　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

4 連覇へ王手！　#25

アルト初表彰台　#16

連続表彰台　#41

タイトルの可能性にかける　#66

KNC では孤軍奮闘ビート　#55

ＫＮＣクラス（軽ＮＡのクローズドクラス）

#5「PROJECT K アルト」が KNC よりの出走となり、全 6 台のエントリーとなったこのクラス、第 3 戦優勝で波に乗る#25「アカミミネコマル 2 トゥディ」が戦いの中心。#25 が連勝で獲ると、同クラスシリーズ 4 連覇という偉業へ大きく前進することになる。#66「SCCV トゥディ」や#41「まっかなバラードトゥディ」がどう戦うか。
そしてもう一台の注目は#16「愛知工科大アルトスペシャル」地元の大学生チームが課外活動の一環としてエントリーしたものだが、マシンは NA660 シリーズなどで活躍する池田自動車の手によるもの、こんな地元コラボでモータスポーツを盛り上げるのはよい活動。

■予選

予選トップは#25「アカミミネコマル 2 トゥディ」1’09.078。、クラス 4 連覇を狙う最強チームが首位発進。2 番手に飛び込んだのは#16「愛知工科大アルトスペシャル」1’09.641、3 番手#41「まっかなバラードトゥディ」1’10.822、4 番手は#66「SCCV トゥディ」1’12.138、5 番手#55「志らはビート」1’13.015、予選最後尾が#5「PROJECT K アルト」1’32.719.他クラスのマシンのコースアウトの改修のため赤旗が出たため、予選のクリアラップが取れないということも影響したか、上位は拮抗したタイムとなった。

■序盤

序盤は#25「アカミミネコマル 2 トゥディ」がトップ、それを#41「まっかなバラードトゥディ」、#66「SCCV トゥディ」が追い上位をトゥディが占める。やはり純粋な速さではトゥディに分があるか。
注目の#16「愛知工科大アルトスペシャル」は 4 番手から上位進出を狙う。5 番手は#55「志らはビート」、改造車クラスでは少ないビートも頑張ってほしい。そして初参加の#5「PROJECT K アルト」、完熟走行から予選への時間が少なかったこともあっただろうが、堅実に周回を重ねていく。

■中盤

中盤でトップに立ったのは#16「愛知工科大アルトスペシャル」、かつての名車”ハコスカ GTR”を模したカラーリング（今の大学生は元ネタ知ってるのかな！？）の新規格アルトが快走。初のクラストップを記録。#25「アカミミネコマル 2 トゥディ」を筆頭とするベテランたちを従えての首位。を#41「まっかなバラードトゥディ」、#66「SCCV トゥディ」の猛者たちも負けじとトップを追う。
#55「志らはビート」、#5「PROJECT K アルト」も遅れずについていく。なにしろまだレースは半分も終わっていないのだから。

■終盤

終盤は首位こそ#25「アカミミネコマル 2 トゥディ」に譲るもの、1～2Lap 差で#16「愛知工科大アルトスペシャル」も追いすがる。3 位走行から逆転を狙う#41「まっかなバラードトゥディ」も 1Lap 差で追ってきており上位陣はまだまだ予断を許さない。
中団でも#66「SCCV トゥディ」、#55「志らはビート」が同じく 1～2Lap 差で争いこちらもまだまだ決着は先。#5「PROJECT K アルト」もすっかり耐久の走行に慣れ自己のペースを掴んだようだ。この分でいけば規定周回数はクリアできそうだが、気を抜いてはいけない。

©2008-2014 GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■最終結果

王者の貫録を見せて#25「アカミミネコマル 2 トゥディ」が 174Lap でトップチェッカー。下剋上を狙った#16「愛知工科大アルトスペシャル」は 1Lap 及ばず 2 位、しかしながら新規格アルト最上位で初の表彰台という快挙。3 位は#41「まっかなバラードトゥディ」で連続表彰台。
4 位は#66「SCCV トゥディ」、5 位#55「志らはビート」の順で#5「PROJECT K アルト」も 154Lap と規定周回数を大きく超えてのポイント獲得。

■総評

この勝利で、#25「アカミミネコマル 2 トゥディ」が前人未到連覇に向けてリーチ。#66「SCCV トゥディ」が逆転で初戴冠となるか、シリーズタイトルのゆくへはこの 2 チームに絞られた。
それにしても印象的だったのは#16「愛知工科大アルトスペシャル」、サポートをしてくれたショップが速いマシンに仕立てたということもあるが、新規格アルト初表彰台はお見事。ピットハンディもあり、昨年のエッセに続く優勝というところまできたのは、裏を返せばそれだけのポテンシャルが新規格マシンにもあるということ。事実レース中の最速タイムは優勝した トゥディとコンマ 2 秒差とそん色ない。
今回は 2 台の参加だったが、KNC にも新規格の流れがきていることを実感した 4 時間耐久戦だった。

確実に完走　#5

クラス別でダブル入賞

©2008-2014　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

久しぶりの出場でトマラナイ優勝！　#223

ランキングはトップに！　#36

追いつけなかったが、追い込んで 3 位　#23

ガチャピンは 4 位　#34

何とかポイント獲得　#38

ＫＮＯクラス（軽ＮＡのオープンクラス）

第 3 戦を終えて、2 勝の#38「デモリッションエグゼトゥディ」と、優勝こそないもの確実に表彰台を Get している#36「JK レーシングユーロトゥディ」が同ポイントで首位。#38「デモリッションエグゼトゥディ」は第 3 戦のリタイヤが痛い。5 ポイント差で追う#23「チームミニ トゥディ」も不気味な存在。
例によって、レース展開次第では総合優勝も狙えるこのクラス、タイトル争いの 3 チームに加え、強豪を含めた 6 台のエントリーで 4 時間戦を迎える。

■予選

予選トップは、#36「JK レーシングユーロトゥディ」で 1’06.269、タイトル争いのためには優勝が欲しい。予選 2 位は今シーズン初出場となった#223「ドオニモトマラナイリンダ JB4」が 1’06.546。3 位#38「デモリッションエグゼトゥディ」が 1’06.645 でこの位置。4 位は逆転タイトルを狙う#23「チームミニ トゥディ」が 1’07.634。5 位に#912「CRAZYZY Today」1’07.634、6 位に#34「JK ガチャピントゥディ」1’14.948。上位は 1 秒半の間に 5 台が並ぶ僅差の予選、これからの激しい戦いを予感させる。

■序盤

最初のスティントでは#223「ドオニモトマラナイリンダ JB4」が首位、それを#36「JK レーシングユーロトゥディ」、#38「デモリッションエグゼトゥディ」、#23「チームミニ トゥディ」というタイトルを争う 3 チームが追いかける展開。少々無責任な言い方をすれば”見る方からすればとても面白い！”序盤戦。
#912「CRAZYZY Today」と#34「JK ガチャピントゥディ」は、その勢いに少し置いていかれたか。

■中盤

中盤にはいっても#223「ドオニモトマラナイリンダ JB4」が首位を守る。まさにどうにも止まらないいった感じで#36「JK レーシングユーロトゥディ」、#38「デモリッションエグゼトゥディ」、#23「チームミニ トゥディ」を従えてトップを走る。5 位には#34「JK ガチャピントゥディ」。
#912「CRAZYZY Today」は約 1 時間走ったところ 46Lap でオーバーヒートでリタイヤとなってしまった。第 2 戦以来の出場となった#912 だが、残念な結果に終わってしまう。

■終盤

勝負の終盤戦でリンダの勢いを止めるはどこかに注目が集まったが、#223「ドオニモトマラナイリンダ JB4」はトップを快走、途中ピットストップの間に#36「JK レーシングユーロトゥディ」がトップに立つこともあるが、3 時間を迎えて 148Lap 走行でトップは譲らない。
とはいっても、2 位#36「JK レーシングユーロトゥディ」、3 位は#23「チームミニ トゥディ」でともに 1Lap 差でつけており、まだまだ勝負の行方は分からない。
しかし優勝争いのもう一台、#38「デモリッションエグゼトゥディ」に異変、白煙を上た後リタイヤと追い込まれる。規定周回数をクリアしていればポイントの対象とはなるが、いずれにしても痛いリタイヤ。

©2008-2014　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■最終結果

#223「ドオニモトマラナイリンダ JB4」の勢いは最後まで止まらず、久々の参戦を見事優勝で飾って見せた。#36「JK レーシングユーロトゥディ」が Lap 差の 2 位フィニッシュでランキングトップに浮上、3 位には#23「チームミニ トゥディ」が 2 位と同 Lap で表彰台に上った。
4 位は一人旅となった#34「JK ガチャピントゥディ」の順、#38「デモリッションエグゼトゥディ」はリタイヤとなったものの 5 位完走扱いで貴重なポイントをモノにした。

序盤のリタイヤは惜しい　#912

■総評

この結果、最終戦を前にしてのランキングは#36「JK レーシングユーロトゥディ」が 65P で首位、2 位には#38「デモリッションエグゼトゥディ」が 58P でつけ、3 位#23「チームミニ トゥディ」が 57P と一段と混戦に。
リザルト以上に実力が伯仲しているこのクラス、最終戦まで目が離せない。

同クラスは予選から意識するもの？

JK はダブル入賞

©2008-2014　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

久しぶりの K 耐久でこの走り！　＃392

ランキングトップを堅持　＃93

ニューマシンで表彰台　＃330

表彰台にはあと一歩　＃717

ＫＴＣクラス（軽過給機のクローズドクラス）

第 3 戦まで終わってすべてウィナーが違うこのクラス、シリーズ上位 3 チームが 4P 差の中に並ぶ混戦。使用するマシンも熟成の旧規格アルト、FR カプチーノ、そして第 2 戦で初優勝を飾った新規格アルトとそれぞれに個性がある。
今回はその 3 チームに加え 2011、2013 年のシリーズチャンピオン#392MRTm、2013 年 2 位の#330RACING FAN が L700 ミラターボを持ち込むなど今シーズンの最多となる 7 台がエントリー。

■予選

注目の予選最速は、#392「Zammers ヴィヴィオ」1’07.662、久しぶりの出場ながら昨年王者の力を見せる。2番手は前戦勝者の#93「藤枝マリンダイビングアルト」1’07.797 でこちらも現在ランクトップのプライドを見せる。3 番手#112「白須賀会カプチーノ」1’08.056 は開幕戦の勝者、4 番手#717「Team Jatsun アルト」1’09.368 は唯一の新規格勝者と上位陣は何れも実力者たち。
さらに 5 番手には#330「DIXCEL コンパーノ ミラ」1’09.731 とマシンをミラに代え 5 番手タイム。ところでコンパーノって車名に共感できる方々はベテランですね(−_−;)。
6 番手には初参加となる#77「fumity カプチーノ」が 1’10.757 で続き、第 3 戦で 2 位となった#69「モモヤマレーシングアルト」が本調子ではないようだが、1’15.437 で 7 番手予選通過。

■序盤

序盤の戦いは#392「Zammers ヴィヴィオ」と、#93「藤枝マリンダイビングアルト」、#112「白須賀会カプチーノ」が順当に上位争い。そこに割って入ろうとするのが#717「Team Jatsun アルト」、#330「DIXCEL コンパーノ ミラ」。#69「モモヤマレーシングアルト」と#77「fumity カプチーノ」は下位からの巻き返しを狙う。

■中盤

中盤戦では#392「Zammers ヴィヴィオ」が王者の力で、じりじりと差をつけ始める。2 番手以下は混戦、#330「DIXCEL コンパーノ ミラ」、#717「Team Jatsun アルト」、、#93「藤枝マリンダイビングアルト」、#112「白須賀会カプチーノ」あたりが 3Lap ほどの中に入り、トップへの挑戦権と表彰台をかけて激しく争う。
追い上げようとする#69「モモヤマレーシングアルト」は、コースアウトやスピンが目立つ、大事には至らなかったが焦りは禁物か。
#77「fumity カプチーノ」も自身のペースをしっかりとつかみクラス最下位ながら周回を重ねていく。

■終盤

終盤でもトップを譲らない#392「Zammers ヴィヴィオ」、2 位は、#112「白須賀会カプチーノ」。#93「藤枝マリンダイビングアルト」と#330「DIXCELコンパーノ ミラ」はピットインを終えて最後の追い上げにかける。
#69「モモヤマレーシングアルト」も終盤は確実なドライビングで周回を増やし、#77「fumity カプチーノ」もこのペースでいけば規定周回収は余裕をもってクリアできるはず。
さあ、残る最終スティント各チームは最後の集中力を発揮する。

©2008-2014　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■最終結果

4 時間戦を制したのは、シリーズチャンピオン経験のある#392「Zammers ヴィヴィオ」が今季初出場で初優勝。かつて 3 年連続で開幕戦を制してきた”開幕野郎”たちは、今年も自らの開幕を優勝で飾った。
2 位には同 Lap まで追い上げた#93「藤枝マリンダイビングアルト」が入り、シリーズ首位をキープ。3 位はこれまた久々の出場でニューマシンを表彰台圏内まで押し上げた#330「DIXCEL コンパーノ ミラ」。#330 は途中ピットロード速度違反ペナルティが 2 度ほどあり、少々もったいなかった。
4 位は#717「Team Jatsun アルト」、5 位、#112「白須賀会カプチーノ」、6 位#69「モモヤマレーシングアルト」、7 位#77「fumity カプチーノ」で全車フィニッシュ。

見事完走　#69

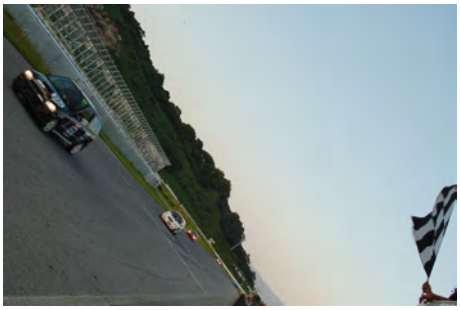
■総評

真夏のような天候の中での KTC ターボ車、マシントラブルなどはなく実に接戦となった。結果は久しぶりの出場となったチームが 1 位と 3 位で相変わらずのチーム力の高さを見せた。その一方で今年のシリーズ上位を行く#93「藤枝マリンダイビングアルト」は、同 2 位の#717「Team Jatsun アルト」以下に 9P の差をつけての、いよいよ最終戦となる。

こちらも初の 4 時間戦を見事完走　#77

俺たちの開幕だぜ！！　4 連勝！

新旧規格アルトの対決



©2008-2014　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

第 3 戦とは打って変わって快晴！

今季初勝利！　＃12

今回は 2 位、ランクも2位　＃210

新規格バトル！　勝ったのはアルトバン

ＫＴＯクラス（軽過給機のオープンクラス）

前戦まで終えて、シリーズランキングトップは、開幕 2 連勝の#32「爆走あばれ馬ミニカ」。それを追うのが、第 3 戦で今季初優勝を飾った#210「ZEST ルブロスアルト」で、その差は 8P。今回はその 2 台に加えランク 3 番手の#12「KC テクニカアルトバンターボ」、久しぶりの出場となる、#78「ガレージ凪屋チャレンジアルト」、＃101「BC 工房カプチーノ」の 5 台がエントリー。

■予選

予選は全体の PP を獲得した#210「ZEST ルブロスアルト」、1’05.493、フロントローに並ぶのは#32「爆走あばれ馬ミニカ」1’05.520 で、早くもシリーズ上位の直接対決。
3 番手は#12「KC テクニカアルトバンターボ」1’06.274 がつけ、4 番手に#78「ガレージ凪屋チャレンジアルト」1’08.583、前戦序盤でリタイヤを喫してしまった#101「BC 工房カプチーノ」1’09.148 が 5 番手から挽回を狙う。

■序盤

序盤激しいトップ争いを繰り広げるのは、#210「ZEST ルブロスアルト」、#12「KC テクニカアルトバンターボ」。それを追うのが#78「ガレージ凪屋チャレンジアルト」、#101「BC 工房カプチーノ」。#32「爆走あばれ馬ミニカ」は少し出遅れたか、トラブルならば第 3 戦の悪夢がよぎる。

■中盤

中盤快走したのは#12「KC テクニカアルトバンターボ」、全体のトップですいすいと周回を重ね、2 時間経過時には早くも大台越えの 101Lap を周回。2 番手には 2Lap 差で#78「ガレージ凪屋チャレンジアルト」、さらに 1Lap 差の 3 番手に#210「ZEST ルブロスアルト」が続く。
ペースを上げて 96Lap 走った#32「爆走あばれ馬ミニカ」が 4 番手、同じく 96Lap の#101「BC 工房カプチーノ」が 5 番手とまだまだワンチャンスで逆転できる位置につける。

振り向けば暴れ馬
3 位確保でシリーズはトップ＃32

©2008-2014　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.

Race Report

■終盤

終盤にかけても#12「KC テクニカアルトバンターボ」は首位を譲らない。2 番手争いは#210「ZEST ルブロスアルト」を中心に残る 4 台が 3Lap ほどの間にはいる大混戦、表彰台争いはもちろん、何かあればトップも入れ替わる可能性も！
特に序盤出遅れたかのように見えた#32「爆走あばれ馬ミニカ」と#101「BC 工房カプチーノ」の 2 台もぐんぐん追い上げる。
#32「爆走あばれ馬ミニカ」は一発の速さこそないが、気が付けば上位という走り、一方の#101「BC 工房カプチーノ」は結果として全体のベストとなる唯一の 04 秒台を刻んでの追い上げでまだまだレースは油断を許さなくなってきた。

しっかり初完走！　#101

■最終結果

第 3 戦では終了間際のコースアウトから優勝を逃した#12「KC テクニカアルトバンターボ」だったが、今回は最後までトップを譲らず見事に今季初優勝。2 位は第 3 戦に続く連勝を狙ったが惜しくも届かなかった#210「ZEST ルブロスアルト」。3 位は得意のするする走法で表彰台に滑り込んだ#32「爆走あばれ馬ミニカ」。そして 4 位は#101「BC 工房カプチーノ」が初完走、5 位は久々出場の#78「ガレージ凪屋チャレンジアルト」という結果。

久々の参加でシブい走り　#78

■総評

新旧規格のバトルなど、見どころの多いレースだったが、#12「KC クニカアルトバンターボ」が今季初優勝を 4 時間戦で飾ったことで、シリーズポイント争いが白熱。上位 3 チームの順位こそ変わらないものの、#32「爆走あばれ馬」72P に対し、#210「ZEST ルブロス」67P、#12「KC テクニカ」57P とその差が一気につまって来た。
次回の最終戦は、一気に逆転の可能性を秘めた戦いが期待される。
また、今回は地元の祭りのため欠席した#14「イシヤマ」が復帰するとの事前情報もあり、タイトル争いをかき回すことも予想される。

©2008-2014　GT-CAR PRODUCE All Rights Reserved.